613-000736 Rev.D 100831

Allied Telesis

CentreCOM® *VX811R* リリースノート

この度は、CentreCOM VX811R をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。
このリリースノートは、取扱説明書（613-000317 Rev.B）とコマンドリファレンス（613-000415 Rev.B）の補足や、ご使用の前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1　ソフトウェアバージョン　1.0.02

2　本バージョンでの制限事項

ファームウェアバージョン **1.0.02** には、以下の制限事項があります。

2.1　CPE のファームウェア更新

参照 「コマンドリファレンス」/「VDSL」

VX502EX のファームウェアを更新中は、以下のコマンドを実行しないでください。

RESET VDSL CPE コマンド
SET VDSL CPE コマンド

2.2　NTP

参照 「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「NTP」

SET NTP UTCOFFSET コマンドで、オフセットにタイムゾーン名（JST など）を指定できません。

2.3　ターミナルサービス

参照 「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「ターミナルサービス」

Telnet 接続した CLI 上でファイアウォールの設定を行うと Telnet セッションが切断されます。

2.4　インターフェース

参照 「コマンドリファレンス」/「インターフェース」

○　Web GUI 上で設定ファイルの作成または、起動ファイルの指定をする際に以下の制限があります。

CLI 上で使用できない文字（?）が Web GUI 上では指定できますが、使用しないでください。
CLI 上ではファイル名として 28 文字まで入力できますが、Web GUI 上の Configuration メニューの「Config Name」には、ファイル名（ベース名）として、27 文字までしか入力できません。

CLI 上ではファイル名が 28 文字までのファイルが指定できますが、Web GUI 上の Configuration メニューの「Set Config」では、ファイル名が 16 文字までのファイルしか指定できません。

○ SET ETH コマンドで SPEED パラメーターに AUTONEGOTIATE 以外を指定すると、POLARITY=AUTO が実行できなくなります。

2.5 PPP

参照「コマンドリファレンス」/「PPP」

CREATE PPP コマンドで IDLE=OFF に設定されている場合、PPP インターフェースがリンクダウンしている状態でも、SHOW PPP COUNTER で表示される PADI のカウンターがカウントし続けます。

2.6 IP

参照「コマンドリファレンス」/「IP」

○ PPP のセッションを切断しても、PPP インターフェースの経路情報が消えません。

○ DISABLE IP コマンドで IP モジュールを無効にした状態でも、インターフェースに IP アドレスが設定されていると、IP インターフェースに設定されている IP アドレスを Target IP とした ARP Request 対して ARP Reply を送信します。

○ RESET IP COUNTER コマンドが、カウンターのカテゴリーの指定なしで実行できてしまいます。

2.7 ファイアウォール

参照「コマンドリファレンス」/「ファイアウォール」

○ SHOW FIREWALL SESSION コマンドのパラメーター指定にて以下の制限があります。

PORT パラメーターにサービス名の指定ができません。
PORT パラメーターにポート番号の範囲指定ができません。
PROTOCOL パラメーターにて不正なプロトコル番号を受け付けます。

○ ADD FIREWALL POLICY INTERFACE コマンドを事前に実行しないと、ENABLE FIREWALL POLICY コマンドのパラメーターが設定できません。

○ SHOW FIREWALL POLICY コマンドで、COUNTER パラメーターと SUMMARY パラメーターは同時に指定できません。

○ SHOW FIREWALL POLICY コマンドで COUNTER パラメーターを指定すると、インターフェースに関するカウンターが表示されません。

○ ADD FIREWALL POLICY NAT コマンドで NAT の指定が不完全でも”?”の入力でその他のパラメーターが表示されます。

○ ファイアウォールのスタティック ENAT を使用し 12 個以上ルールを設定した場合、12 番目以降のルールに該当する通信は行えません。

2.8 L2TP

参照「コマンドリファレンス」/「L2TP」

CREATE PPP コマンドで IDLE=OFF に設定されている場合、起動時にすべての設定の読み込みが終わる前に、L2TP のオペレーションが始まってしまいます。

3 取扱説明書・コマンドリファレンスの補足・誤記訂正

「CentreCOM VX811R 取扱説明書（613-000317 Rev.B）」と「CentreCOM VX811R コマンドリファレンス 1.0.00 (613-000415 Rev.B)」の補足事項、および誤記訂正です。

3.1 電話線の接続

参照「取扱説明書」 20 ページ

○ 本製品の POTS/ISDN LINE インターフェースは 2 心で結線されています。4 心で結線された POTS/ISDN LINE インターフェースが必要な多機能電話機などには対応していません。

○ VDSL ポートの接続についての記載に誤りがありましたので、訂正してお詫びいたします。
誤：本製品は、隣接するポート間の線路長が最小の場合に最大限の伝送速度を実現できるようになっています。
正：本製品は、隣接するポート間の線路長差が最小の場合に最大限の伝送速度を実現できるようになっています。

3.2 最小 SNR マージンのデフォルト値

参照「取扱説明書」 74、82 ページ

最小SNRマージンのデフォルト値の記載に誤りがありましたので、訂正してお詫びいたします。
誤：0dB
正：5dB

3.3 SNR マージン値の設定

参照「取扱説明書」 82 ページ

「・Target Downstream SNR Margin」、「・Target Upstream SNR Margin」、「・Minimum SNR Margin」の説明「SNR マージン値を 0 ～ 31dB（0.5dB 単位）の範囲で選択します。」に以下の設定例を追加します。

例えば、6dB としたい場合は、12 を指定してください。

3.4 ポートセキュリティー機能

参照「取扱説明書」 14 ページ

ポートセキュリティー機能の説明に誤りがありましたので、訂正してお詫びいたします。
誤：サポート
正：サポートしていません。

3.5 自動アップデート

参照 「取扱説明書」 56 ページ

○ SET CONFUPDATE コマンドの TEMP パラメーターの記載に誤りがありましたので、訂正してお詫びいたします。
誤：TEPM
正：TEMP

○ 手順 3 に SET CONFUPDATE PARAMETERFILE コマンドが抜けていましたので、訂正してお詫びいたします。正しくは以下のような設定を行ってください。

```
ENABLE IP
ADD IP INT=ETH0 IP=192.168.1.1
ENABLE CONFUPDATE
SET CONFUPDATE REPOSITORY LOCATION=192.168.1.100 METHOD=FTP
  USERNAME=FTPUSER PASSWORD=FTPPASS TEMP=temp.tmp OUTPUT=config.cfg
SET CONFUPDATE PARAMETERFILE=temp.prm
```

3.6 ファイアウォールの設定

参照 「取扱説明書」 63、64 ページ

ファイアウォールの設定に誤りがありましたので、訂正してお詫びいたします。

○ 手順 13 で以下の指定は必要ありません。

```
ENABLE FIREWALL POLICY=net RULE=1 AC=ALLOW INTERFACE=ppp0
  PROTOCOL=ICMP ICMPTYPE=0
ENABLE FIREWALL POLICY=net RULE=3 AC=ALLOW INTERFACE=ppp0
  PROTOCOL=ICMP ICMPTYPE=3
```

○ 手順 13 の「RULE=2」については、正しくは以下のような設定を行ってください。

```
ADD FIREWALL POLICY=net RULE=2 AC=ALLOW INTERFACE=vlan1
  PROTOCOL=ICMP ICMPTYPE=8
```

○ 「表 13.3.2 設定スクリプトファイル（ROUTER.CFG）」の以下の項目を削除してください。

```
12  ADD FIREWALL POLICY=net RULE=1 AC=ALLOW
      INTERFACE=ppp0 PROTOCOL=ICMP ICMPTYPE=0
14  ADD FIREWALL POLICY=net RULE=3 AC=ALLOW
      INTERFACE=ppp0 PROTOCOL=ICMP ICMPTYPE=3
```

3.7 ADD FIREWALL POLICY RULE コマンド

参照 「コマンドリファレンス」/「ファイアウォール」/「フィタールール」

○ PROTOCOL パラメーターに ICMP を指定した場合、ICMPTYPE パラメーターも指定する必要があります。

○ パラメーターの解説に以下の誤りがありましたので、訂正してお詫びいたします。
誤：ICMTYPE: ICMP メッセージ番号。PROTOCOL=ICMP の場合のみ有効
ECMPORT: ICMP コード番号。PROTOCOL=ICMP の場合のみ有効
正：ICMPTYPE: ICMP メッセージ番号。PROTOCOL=ICMP の場合のみ有効
ICMPCODE: ICMP コード番号。PROTOCOL=ICMP の場合のみ有効

4 コマンドリファレンスについて

最新のコマンドリファレンス**「CentreCOM VX811R コマンドリファレンス 1.0.00 (613-000415 Rev.B)」**は弊社ホームページに掲載されています。
本リリースノートは、上記のコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、お手持ちのコマンドリファレンスが上記のものでない場合は、弊社 Web ページで最新の情報をご覧ください。

※パーツナンバー**「613-000415 Rev.B」**は、コマンドリファレンスの全ページ（左下）に入っています。

http://www.allied-telesis.co.jp/